



With Kids

海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする臨床心理士の会



●● Newsletter 16号 2016年 6月17日 ●●

2011年3月の記憶もまだ新しい中で、今度は九州での地震。そういえば、昨年この時期にはネパールも大地震に見舞われていました。抗うことのできない自然の力の中で、私たち人間の存在は小さいですが、被災したみなさんや世界中で困難な状況の中で生活する人々の今を思うことを忘れずに日常を送っていきたいと思います。そんな思いとともに、今号もお届けします。(OA)

With Kids に望むこと

デュッセルドルフは欧州における日本企業の最大拠点で、周辺地区も含めると約7千名の日本人が在住している。本校は1971年に設立された欧米で一番古く、かつ最大の日本人学校である。日本人学校は世界に現在89校あり、本校は第8位の規模である。

With Kids様と当校の関係は、メンバーの臨床心理士の方が、2013年秋ご主人の仕事の関係で当地に来られたことから始まった。当初はその方個人の当校児童生徒への個別支援がきっかけであった。しかし、その後With Kids様から2年連続で日本からご来校頂けるようになった。最初が2014年10月で、澤谷代表始め4名のメンバーだった。これは欧州で初めての活動だとその時伺った。当校で講演会、ワークショップ、個別相談等を短期間精力的にこなして頂き、大変感謝している。しかしこれを1回限りで終わらせず、是非続けて頂けないかとWith Kids様にご相談したところ、2015年7月も大変お忙しい中スケジュールをやり繰りして、3名のメンバーに遠いドイツまでお越しいただいた。そして今年も既に11月の来校予定が決まっており、感謝に耐えられません。また今年2016年11月は、当校だけで

デュッセルドルフ日本人学校 事務局長 木田宏海

なくミュンヘン日本人学校にもこちらから声をかけ、初めて訪問して頂く事になっている。

企業の海外進出に伴い、発達障害を持つ児童生徒の海外帯同が増えている。しかし当校で常設の特別支援学級を開設し専門教員を配置しても、支援が必要となる児童生徒が常に在籍しているとは限らない。この為当校では特別支援教室は常設せず、個別に対応する方針を取っている。しかし教員に専門家がいない為、With Kids様に定期的にご来校頂き、講演会、研修会、個別相談会を開いて頂けるのは、大変有難いことである。

相談機関の少ない海外において、日本語で相談出来るのはとっても心強い。遠いドイツではあるが、費用負担を相談させて頂きながら、今後とも定期的にご来校頂き、各種相談に乗って頂けると大変有難い。最後になりましたが、これまでの豊富なご経験を生かされ、With Kids様の益々のご発展を心よりお祈りいたします。



【With Kids よりお知らせ】

2017年度のWith Kidsによる海外日本人学校等訪問（個別相談、教職員や保護者研修会など）をご希望の場合は、2016年12月末までに soudan@withkids-kaigai.com までお問い合わせください。

おうちでできる、ぶきっちゃんの克服法

いろいろ領域の職場を経験してきましたが、現在、療育（治療教育、発達障害などの心理教育、社会生活訓練、機能訓練）の現場にいます。そこで言語聴覚士（ST）、作業療法士（OT）から仕入れた知恵をおすそわけできればと思い、不定期で書いていこうかと思っています。

言葉の訓練や、手先の訓練、体のバランス感覚の訓練などは、〇〇教室に行ったときにしかできないことでは意味がありません。家でできること、家にあるものを使って、でないと続かないということが原点にあります。最も望ましいのは、親との遊びを通して身につけていければということで、生活に密着した「ぶきっちゃん克服法」を目指しています。今回は、そのミニ知識の中から1つをご紹介します。

【鉛筆のもちかた】鉛筆の持ち方を確実にするために、シ

リコンでできたグリップが商品化され、通販などで入手できます。OTは紙粘土でその子どもに合うサイズを自作していました。他には、こんな身近なものでも。目玉クリップというのですね。今回商品名を初めて知りました。



いろんなサイズがあります。私も試してみましたが、力が分散するのかわれにくいです。鉛筆を挟んで、クリップの羽根の間に人指し指を置きます。正しい持ち方ができてしまいます！いかがでしょうか？今後も小出しにワザをシェアしたいと思います。(NY)

サイコロジカル・ファーストエイド



近年、大勢の人が巻き込まれる災害・大事故・テロなどが起こったあと、被災者や被害者の方々に対して「こころのケア」の必要性が力説されてきています。しかし、体のケガと違って「こころのケガの手当の方法」は、まだあまり知られていません。特に海外で生活していると、日本語での情報が少なかったり入手し難くかったりと、不安が増すこともあるでしょう。そこで予め知っているといい「こころのケガの応急手当」や回復を助ける知識・対応法について示されたサイコロジカル・ファーストエイド (Psychological First Aid ; PFA) をご紹介します。



☆PFA とは 世界保健機構 (WHO) が国連と協力して、災害やテロに遭った子ども、思春期の人、親 (保護者)、家族、大人に対して、誰もが安全な形で心理社会的ケアを提供できるようにすることを目的に作られた「こころのケガの応急手当」のマニュアルです。

<http://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/general/index.html>

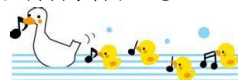
サイコロジカル (心理的) という言葉を使っていますが、PFA には心理的支援だけでなく社会的支援も含まれています。災害の被災者や犯罪の被害者が、二次被害を受けない

ようにするための関わり方や、尊厳を守り文化に配慮しながら支援するための枠組みが示されています。PFA は、特別な治療法のマニュアルではなく、少しの知識があれば誰にでもできる、基本的な対応法を学ぶためのガイドです。それぞれの立場、経験、専門、あるいは現場のニーズに応じて、必要な部分だけを取り出して、使ったりすることができます。

☆心の応急手当の重要性 災害等に遭遇し、強い恐怖や衝撃を受けた場合、不安や不眠などのストレス症状が現れることが多いのですが、こうした反応はだれでも起こり得ることで、時間の経過とともに薄らいでいきます。しかし、場合によっては長引き、生活に支障を来すことがあります。特に子どもの場合はその後の成長や発達に大きな影響を及ぼすこともあるため、心のケアが重要な課題となっています。

そのため被災後は、日常の子どもの心身の健康観察を徹底し、情報の共有を図るなどして「子どもの心の SOS」の早期発見に努め、適切な対応と支援を行うことが必要となります。(SM)

<PFA JAPAN / 文部科学省子どもの心のケアのために 等>



海外での緊急事態に備えて



その国に住み慣れて、日常生活は問題なく過ごせるようになっていても、ひとたび事件や事故、災害のような緊急事態があると、言葉のわからない外国人は、「弱者」になりがちです。緊急事態に備えて、住所を管轄する日本大使館や総領事館にメールアドレスを登録しておく、地域の安全情報を日本語で配信してもらえるメールマガジンサービスがあります。各館のホームページから登録することができますので一度覗いてみてはいかがでしょうか。また、短期の旅行者向けには「たびレジ」というサービスもあります。旅行期間中、滞在先の安全情報を指定したアドレスに配信してもらうことができます。(SK)

メンバー紹介

八木清美 (やぎ きよみ) : タイのバンコク在住です。日本では、児童相談所や教育相談室、乳幼児健診などで心理検査や親子面談を担当していました。海外滞在経験としては、バンコクの前にドイツ・ハンブルグで2年間過ごしました。バンコクでは二人の小学生の子育てをしながら、ボランティアとして特別支援教育に関わったり、タイ人のお母さんと交流したり…の毎日。日本での仕事の経験を活かしながら、少しでも地域の社会貢献ができればと考えています。

無料のご相談メールは、ホームページにアクセスし、
相談フォームにご記入の上、送信してください。

- 匿名での相談が可能です
- 1つのご相談につき3往復までお受けします
- ご相談前に必ず、相談規約をご確認ください
- ホームページアドレス : <http://www.withkids-kaigai.com/>
- メール相談アドレス : soudan@withkids-kaigai.com

With Kids のHP は (財) KDDI の助成金で作成しました

発行元/文責 :

With Kids

—海外に住む子ども達の心の健康をサポートする臨床心理士の会—

代表 : 澤谷厚子

事務局 : 〒227-0061 横浜市青葉区桜台 16-39

連絡先 : soudan@withkids-kaigai.com

発行年月日 : 2016年6月17日

*With Kids は海外子女教育振興財団主催の「帰国生のための学校説明会・相談会」(東京7/26)に参加します。

